

久留米大学バイオ統計センター公開セミナー

以下の要領にて、公開セミナーを行います。奮ってご参加ください。

日時：2020年1月23日木曜日, 15:00-17:00

場所：久留米大学バイオ統計センター 講義室

<http://www.biostat-kurume-u.jp/access/>

15:00-16:00 本田主税(久留米大学大学院医学研究科博士課程4年)

「複数または層別された一致性研究における一致係数AC1の均一性検定と共通AC1の推定」

2名の評価者が対象を+か-のいずれかに分類する場合の信頼性（一致性）評価において、Cohenの κ 係数が広く用いられている。しかし、 κ 係数は観察対象集団の有病割合や、2者の評価が一致しない割合の偏りに大きな影響を受ける問題が知られている。近年、Gwetにより提案された新たな一致係数AC1は、これらに対して頑健で、医学分野で活用され始めている。一方、メタアナリシスなど複数の研究の結果を併合したり、共変量で層別に解析したりする場合、いくつかの一致係数を比較し、さらには共通の一致係数を検討することが重要となる。本発表では、層のある場合のAC1の均一性検定の導出及び併合した共通AC1とその信頼区間の推定法を提案し、AC1取り巻く信頼性研究の展望について述べる。

16:00-17:00 國武照代(久留米大学大学院医学研究科博士課程4年)

「初回治療後の婦人科悪性腫瘍患者における下肢リンパ浮腫発症のリスク因子の検討」

婦人科悪性腫瘍患者の下肢リンパ浮腫のリスク因子に関し、初回治療を受けた婦人科癌患者を対象とした下肢リンパ浮腫の発症のリスク因子を検討した。2013年1月1日からの3年間において久留米大学病院で初回治療を受けた婦人科癌患者903人のうち、最終的に356人の患者を最長で5年間追跡し後ろ向きコホート研究による解析を行った。統計モデルには離散生存時間モデルを構築し、ハザード比を推定するためにC-log logリンクモデルをあてはめ、リスク因子間の関連は一般化構造方程式モデルを使用して推定した。54人の患者（15.2%）が下肢リンパ浮腫を発症し追跡期間の中央値は1083日（範囲：3-1819日）、発症期間の中央値は240日（範囲：3-1415日）であった。これら54人の患者の38.9%が6ヶ月以内に下肢リンパ浮腫を発症し、2年以内に85.2%が発症した。リスク因子はFIGO進行期分類、放射線療法、およびリンパ節切除数（ ≥ 28 ）であった。一般化構造方程式モデルを使用した臨床モデルを臨床使用することで患者の生活の質の向上につながると考える。